脱原発結集 Vol.22

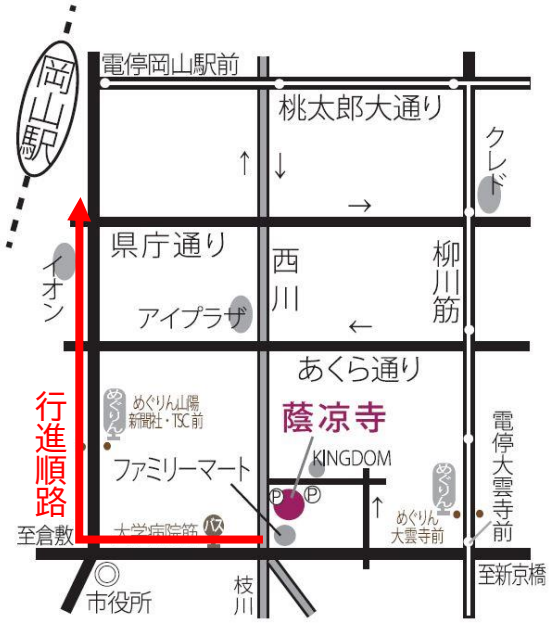
宗教者核燃裁判全国キャラバン in 岡山

2024年 4月24日

第 22 回脱原発結集

宗教者核燃裁判全国キャラバン in 岡山
日時：2024年4月24日（水）14：00開場
場所：蔭涼寺（岡山市北区中央町10－28）
主催：原子力行政を問い直す宗教者の会
　　脱原発をめざす仏教者ネットワーク岡山

宗教者が核燃料サイクル事業廃止を求める裁判を東京地裁に提訴しました。今こそ未来への責任を果たす時です。
いのちを犠牲にする不毛な繰り返しから解脱するために、「原子力行政を問い直す宗教者の会」が歩んできた歴史と存在意義をかけて取り組みます。
岡山からも連携して声を届けましょう。



14：00　開場　　14：30　開会
　長田浩昭（真宗大谷派：原子力行政を問い直す宗教者の会事務局）
　　「能登半島地震が突き付ける課題」
　中嶌哲演（真言宗御室派：宗教者核燃裁判共同代表）
　内藤新吾（日本福音ルーテル教会：宗教者核燃裁判共同代表）
　　「宗教者核燃裁判の概況説明」
15：50　意見交換
17：00　閉会
17：30　街頭アピール（会場から岡山駅まで行進）
18：30　懇親会（於：蔭涼寺　会費 2000 円　要予約）
※懇親会参加申し込みは、こちらのフォームから→
または下記事務局までご連絡下さい。

講演会は入場無料、参加自由です。
（懇親会は要申込）

脱原発をめざす仏教者ネットワーク岡山
Buddhist Network Okayama for NO NUKES

脱原発をめざす仏教者ネットワーク岡山
（事務局）岡山市北区南方三丁目 10－40　長泉寺内　TEL086（223）7450　メール nonukesbnw@chosenji.net

「原子力行政を問い直す宗教者の会」は、仏教、キリスト教、神道などの全国の宗教者が参加する組織で、１９９３年に結成され、国の原子力政策に対し宗教者としての立場から様々な提言を行い、警鐘を鳴らしてきました。各地の市民運動にも寄り添い、福島原発事故後は保養事業などにも取り組んできました。伊方原発再稼働停止の申し入れを行った２０１８年の松山全国集会において、原発関連訴訟の判決が原発容認に傾く中、司法への宗教者からの働きかけが必要なのではないかという認識に至り、脱原発弁護団全国連絡会（代表河合弘之弁護士）と連携して、青森県六ヶ所村の原子力施設を運営する日本原燃に対し、２０１９年３月、核燃料サイクル事業廃止を求める裁判を東京地裁に提訴しました。

核燃料サイクルとは、原発の使用済み燃料からプルトニウムを抽出し、高速増殖炉で再利用する技術で、あと数十年で枯渇するウラン燃料を６０倍まで利用することが出来ると言われていました。しかしこの核燃料再処理は度々のトラブルや技術的な問題を抱え、原発への有効な利用は実現していません。先行研究を行ってきたアメリカ、イギリス、フランスはすでに高速増殖炉開発を中止しています。日本も総額２兆円を費やした研究炉「もんじゅ」の廃炉が決定しました。それでもまだ核燃料サイクルは継続というエネルギー基本政策を閣議決定しています。その中核施設が六ヶ所再処理工場です。本格稼働を２６回も延期して今なおアクティブ試験中という何の役にも立っていない施設に、すでに２兆９０００億円もの税金（電源開発促進税）が使われています。核燃料サイクル事業全体の総事業費は、１９兆円以上にも及ぶと見られています。

青森県六ケ所村は１９６０年代に「むつ小川原開発計画」という国策の推進により土地の買収が進められ、当初は石油化学コンビナートや３０万都市が作られる「世界最大の開発」という触れ込みでしたが、いつの間にか住民はいなくなり原子力関連施設が次々と建設されました。現在六ヶ所村には、再処理工場（試験中）、ウラン濃縮工場、ＭＯＸ燃料工場（建設中）、低レベル放射性廃棄物埋設センター、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターなどがあり、また下北半島には東北電力東通原発、東京電力東通原発（建設中）、むつリサイクル燃料備蓄センター（審査中）、大間原発（建設中）、国家石油備蓄基地、航空自衛隊・米軍三沢基地、天が森射爆場、猿が森射弾道試験場、釜臥山レーダー基地など、原子力、軍事関係施設が集中しています。それぞれの施設が、人権的倫理的に様々な問題をはらんでいます。とくに核燃料サイクル事業は、再処理施設の通常運転による放射性物質の環境放出、想定される事故の重大かつ深刻な影響、作業員被曝、使用済み核燃料・高レベル廃棄物の移送、大量の税投入による自治体財政の不健全化など、見過ごせない問題を多く抱え、日本の原子力政策の無責任な推進の本丸とも言えます。
中でも地震による事故の影響は計り知れず、多くの専門家が核燃料サイクル施設の建設・運営に問題を指摘しています。この度の能登半島地震においても、海底の隆起や大規模地震の連動性などによる事故への影響を考えると、より一層の危機認識に迫られています。

岡山県は、１９５５年に人形峠で天然ウランが発見され原子燃料公社が設立された言わば核燃料サイクルのスタート地でもあります。ウラン残土問題を抱え、高レベル核廃棄物の最終処分場が検討されるなど、さまざまな問題を経験しています。現在も日本原子力研究開発機構の人形峠環境技術センターでは、核燃料サイクルのバックエンド研究開発が進められています。

経産省ホームページの図に追記